

平成 21 年 4 月 11 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中齋塾 東京フォーラム

### 平成 21 年 第 4 回講話

おはようございます。

新年度でもありますし、初めての方がおられますので内容を少し申し上げておきます。

中齋塾フォーラムのベースは、知足です。これから人生を生きていく上で必要なものの考え方は、足るを知るという考え方だと思います。先人が残してくれた知足という思想をしっかりと勉強して、我と我がものにしよう。それで自分自身が知足の思想をしっかりと身に付けたら、ご近所の方や知り合いの方に、足るを知るという考え方で生きていけば世の中明るく楽しく、役に立つ人生が送れると勧めていただければ有難い。ですから基本は、知足を身に付けましょうという事です。

話を進めさせて戴く中で、知らず知らずの間に身に付けるものは、知識・見識・胆識です。今、世の中には色々な情報が流れています。聞きたくなくても自然と入ってきますから、それらの知識（情報）を取捨選択して、これは重要な知識であるとか、これは聞き流して良い知識だというように、知識・見識・胆識という範疇で情報を分類していく。知識を分類・整理する事が身に付くようになると、情報が沢山入って溢れ出るくらいに知識が貯まった時、知識があふれ出て、何か大きな問題に対してこうした方が良いという見識（方針）が心の内から湧き出てきます。

ところが湧き出てきても、実行する時にはなかなか大変です。よく、「死ぬ気でやりなさい」と言いますが、本当に死んでしまったら良いわけがない。死ぬ気でやるとはどんなものだろうという疑似体験等も重ねながら、自分の持った見識を実行しようと考え、実行したとします。そうなってくると見識が胆識に変わります。

ですから私どもが知足という考え方を身につけるべく色々研究し、学びを深めていく中で、知識・見識・胆識について自分自身のものの考え方がしっかりしてくる。日常生活においては、急な判断を求められる事が多いですから、判断基準を持っていなければ、どうしたら良いか分からなくなって結局流されてしまいます。この中齋塾フォーラムの中で、自然と判断基準が身に付くようになって欲しいと思っています。

判断基準は、判断の三原則（本質・大局・歴史の三点から物事を見る）を身に付けて戴き

たいと思っています。これは安岡正篤先生が言われた三つの原則と、木内信胤先生が言われた原則を合体させて、判断の三原則と申し上げております。

これを進めていくと、総合的直観力が見え始めます。総合的直観力が身についたら言う事なしです。

中斎塾フォーラムでは知足をベースにして、知らず知らずの間に、今申し上げたものが身に付くことを進めています。ここだなと思った時には、しっかり聞いて戴いて、メモをしたり質問したりして下さると、より深く入ると思っています。

フォーラムで毎回お聞きする事があります。初めての方は、よく考えて答えて下さい。

「昨日一日、朝起きてから寝るまでの間、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「昨日、夜寝る時、良い一日だったと思われた方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

これも難しいですね。なかなか全員の方が上げるのは難しい。

もう一つお聞きします。

「昨日一日、自分から有難うと言い、人さまから有難うと言われた方、手を挙げて下さい」

有難うと言うのは簡単ですが、有難うと言われるのはなかなか難しい。有難うと言って貰う為には、自分で手間隙かけなければいけないと考えています。

私は寝る前にいつもこの確認をしています。これらを思い出さないと寝られなくなっています。そして最後に、「明日は良い日だったな・・・」と明日の事を過去形で思うようにしています。明日が過去形で良い日だったと思えたら、安心して眠ります。このベースにあるものは、洪澤栄一さんが論語の中の「三省」をどのように活かしていたかを、私流に活用したわけです。

ではレジメに入る前に、本日の論語素読の解説を致します。

しちよう ろく もと まな  
子 張 禄を干めんことを学ぶ。

しいわ おお き うたが か つつし そ よ い すなわ とが すくな  
子曰く、多く聞きて疑わしきを闕き、慎みて其の余を言え、則ち尤め寡し。

おお み あやう か つつし そ よ おこな すなわ くいすくな  
多く見て殆きを闕き、慎みて其の余を行えば、則ち悔寡し。

げん とがめすくな こう くいすくな ろく そ うち あ  
言 尤 寡く、行 悔 寡 ければ、禄 其の中に在りと。

子張がどこかに勤めたい、採用してくれる所はないだろうかと孔子に聞いた問答です。孔子の周りに集ってきた三千人というお弟子さん達は、色々な国に勤めて、高級官僚になって思う存分腕を振りたいわけです。最初から大臣クラスで抱えてもらう為に、孔子塾に入り孔先生に教わって、推薦をして貰い重要なポストで迎えられることを考えて、孔子の周りに集ってきているとお考え戴ければ良い。今の日本で言えば、松下村塾でしょうか。

子張は孔先生につながる事によって、中途採用で最初から重要なポストに入りたいのだけれども、先生早く紹介して下さい・・・という意味が「禄を干めんことを学ぶ」という台詞に入っています。

それに対して孔先生が答えています。

情報をたくさん取って、これはおかしいというものは取り除きなさい。残ったものを慎重にチェックして、最後の最後に残ったエキスのようなものについてのみ発言すれば、世の中から追及されるようなことはない。沢山の事物を見てあやふやなものを取り除き、残ったものを慎重に実行するならば、後悔するようなことはない。発言も人さまから咎められる事が少なくなり、行動も後悔するような事がなければ、自然とあなたの望むようなポストで迎えられるようになる。

この経緯を見ると、小沢さんや麻生さんが味わったらよい文章だと思います。

最近の例で申します。

つい、テレビで見たり聞いたりすると、“テレビで言っているのだから”とか、“間違いなくその人が喋っているのだから”と、きっとそうなのだろうと信じかねない。

最近インドで 20 万円代の安い自動車が売り出されました。昨日の朝、テレビを見ていましたら、その車を買おうとしているインド人が「こんなに安ければ、誰でも買うよ」と言っていました。そうすると我々日本人の感覚だと、“22 万円なら安い。確かに誰でも買うだろう”と、その発言を当たり前だろう、とすーっと信じてしまう。ここら辺が怖いところです。インドの人達の所得は、凄まじく低いのです。低所得層が当たり前ですから、22 万という数字は、雲の上のような数字なのです。インドの人達で車を買えるのは、ほんの一握りの富裕層なのです。ですからそのテレビを見ていて、これは映像の作り手が、日本人好みの事を喋っているものだけ抽出して流しているなと感じました。他にも沢山のネタがあったはずだけれども、日本人向けのものを選んで流しているのだと思ってテレビを見ていないと、怖い。

阪神大震災の時にテレビで、建物がどんどん倒壊してぐしゃぐしゃになっている映像が

流れました。これは大変だと思ひまして、早速現地に行ってみると、確かにそういう潰れている建物もあるのですが、その両隣の建物はちゃんと建っているのです。潰れてどうにもならない建物だけを映すものだから、全部が潰れているのではないかと錯覚を起こす。自分で見たり聞いたりしたと信じているけれども、これはやらせの上に乗った、「見たり」「聞いたり」ではないかと常に意識していないと怖い。新聞を読む時も、実態は違うのではないかと、常に疑問符をもってみる必要があると思います。その中で、「疑わしきを闕き」だから、おかしいと思うものを取り除く。テレビを見ていても、その背後に色々な言動をしている人達がいるわけです。

麻生さんは知っているもの・聞いているものをその場の思いつきでつい喋るから、後始末に周りの人が振り回される。慎まないものだから、後から後悔が出てくるし、周りからマスコミに咎められる。そう思って発言や実行をしていかなければ、政治家としての資質は疑問符が出ます。

あいこうと いわ なに な すなわ たみふく  
哀公問いて曰く、何を為さば則ち民服せんと。  
こうしこた いわ なお あ こ まが お すなわ たみふく  
孔子対えて曰く、直きを挙げて諸れを枉れるに錯けば、則ち民服す。  
まが あ こ なお お すなわ たみふく  
枉れるを挙げて諸れを直きに錯けば、則ち民服せずと。

哀公が孔子に、「どういう事をすれば、国民が素直に自分の言う事を聞いてくれるのか」と聞きました。

「真っ正直の人を、心の曲がりくねった人間の上に置いて実行させれば、自然と国民はあなたの言う事を聞くようになるでしょう」と、孔子が答えています。

今の時代を考えると、私服を肥やすような人、例えば小沢さんです。身体の具合が悪いから、ご飯を食べた後2時間くらいはゆっくりと休まなければならないという事で、マンションをいくつも置いて、そこで横になるのだとご本人は説明していました。すると当然、看病するような人がいるのだろうとか、多分女性だろうか・・・と、自然と考えてしまいますね。民主党から貰っている小沢さんのお給料だけで、そう次々とマンションが買えるのだろうかと思わざるを得ない。本人がいくらテレビの前で色々な釈明をしても、いったん火がついた疑問は消えません。という事でこの文章は、正直な人を民主党のトップに据えれば、自然と民主党に票が入るだろうと読めば良ろしい。

自民党の場合も同じです。今の日本の国の中で真っ正直だろうなと思うのは、天皇陛下でしょうか。仮に天皇陛下のような方が自民党のトップになったら、私腹を肥やすような悪人がいっぱいいたとしても、私腹を肥やすわけにはいかなくなるでしょうから、自然と

自民党にも票が入るでしょうと読めばよろしい。

つまり、素晴らしい人物をトップにすれば、あとは右へならえをするものだという事です。

**枉れるを挙げて諸れを直きに錯けば、則ち民服せずと・・・**上が好き放題・勝手放題やっていて、国民だけちゃんとやれと言っても、聞くはずがない。

日本の国の自民党、民主党、政治家の話は、正にこの通りです。これは会社の中においても同じですし、家庭においても同じです。大黒柱のお父さんが、きちんと一所懸命働いている姿を家庭の中に見せれば、自然と家庭の中も収まってくると思います。

論語について、洪澤栄一さんが「判断に困る時、論語を見れば必ず国家の問題から企業の問題、個人の問題、全て解決策が論語の中にある。論語を拳々服膺する事によって、人生を間違いなく過ごす事ができた」と言っています。

ですから皆さんも論語を自分に置き換えて、現代に置き換えて読むことが肝心な事だと思います。

きこうし と たみ けい ちゅう もつ すす これ い か  
季康子問う、民をして敬 忠 にして以て勸ましめんには、之を如何にせん。と。  
しいわ これ のぞ そう もつ すなわ けい こう じ すなわ ちゅう  
子曰く、之に臨むに莊を以てすれば、則ち敬す。孝 慈なれば、則ち忠なり。  
ぜん あ ふのつ おし すなわ すす  
善を挙げて不能を教うれば、則ち勸むと。

季康子は人の言う事を聞かない・人を信用しない・自分でやらないで人に言うだけというタイプの人です。こういう人は周りを見渡すと結構いるのではないのでしょうか。

その季康子が、「国民が上の人を尊敬し、忠誠を尽くし、一心不乱に実行していくようにさせる為には、どうしたら良いでしょうか」と孔子に聞いた問答です。

「莊」とは、重々しい顔つきで厳粛な雰囲気です。威厳があって自然と頭が下がるような人は、常に正しい事を言い、実行している裏付けがあるから、回りも何となく頭が下がる。

之に臨むに莊を以てすれば、則ち敬す・・・国民に対して、あなたが常に厳かな顔つきで、常に正しい事を実行して信頼を得るようにすれば、自然と下々はあなたの言う事を聞き、敬うようになるでしょう・・・でも、あなたは出来ないでしょうねと皮肉も入っています。

**孝 慈なれば、則ち忠なり・・・**上の人間が親孝行をすれば、自然と服すようになる。国民に対して慈しみの心をもってすれば、自然と国民は真心をもって接するようになる。

**善を挙げて不能を教うれば、則ち勤むと・・・善人や正直者を引き立てて上にもっていき、職に付けない人には教育をして仕事に就かせるような政策を進めていけば、自然と国民は正しい道を歩むようになる。**

この文章などは今、実行して欲しいですね。今日の新聞を見たら、全く反対です。追加経済対策で事業規模が 56 兆円、真水が 15 兆円ですか・・・そんなにお金を出すのなら、本当に必要な所に出してもらいたいと思います。今回の経済危機対策を見ると、完全にばら撒きです。そして 3 年後に消費税を上げる事が透けて見えました。これだけばら撒いたらどこかで落とし前をつけなければいけないので、消費税を上げない限り、ばら撒きの後始末は出来ませんから、消費税アップの事は文言を入れておいて、一緒に後始末をお願いしますというのが、これから数ヵ月後に出てくると思います。自然と、消費税アップは当たり前だという雰囲気醸成されるだろうと思います。これは逆で、間違いだと私は思います。

「之に臨むに莊を以てすれば」ですから、顔かたちが自然と信用できる人相に今の政治家はなっているかどうか見れば良いのです。私が見る中で、この人はと思ったのは舛添さんです。舛添さんは親の看護をしたのですね。親の看護でかなり苦しんだという事が親近感を持たれて、かなり票を稼いだと思います。パフォーマンスもかなりやっているとしますが、「莊を以てすれば」の“準”くらいは、舛添さんはやっているとします。唯、最近舛添さんの顔つきが悪くなっていますので、少し気になっています。最近、与謝野さんがそういう雰囲気を持ち出したなと思います。与謝野さんは今度、しっかりと消費税アップに関する話も盛り込みましたから、それなりの相が出てきているなと感じます。

ですから今の時代、こういう古典をよく読みこなして、それを現実に活かそうという努力を政治家も官界も財界もすべきではないかと思います。ちなみに論語が好きな財界人は結構いるのです。ところが現実になかなか活かさない人が多い。政治家はもっと酷いです。

論語についてもう少しお話しします。どうしても私は、論語は渋澤栄一の『論語講義』を読みます。他の学者の先生方の解説本を見ても面白くない。現代に置き換えて解説しているのは、渋澤栄一さんの『論語講義』だけでした。勿論時代は明治ですから、その時代の事ばかり書いてあります。

本日の論語を渋澤論語で確認してみたら、面白い解説がありましたのでご紹介します。小早川隆景が手紙を右筆に書かせる時に、「この手紙は非常に重要で急いでいるものだから、ゆっくり落ち着いて書け」と言った台詞を挙げて、これは急がば回れの好実例で、大

いに真似ねばならないと書いています。

又、渋澤栄一さんが自分の身の回りの人を採用する時の判断基準は、「子張が禄を求めんことを学ぶ」の言葉の感想ですが、子張は雇いたくないという雰囲気は滲んでいます。能力があって口が達者で、何か言ったらさっとこなしてくれるような人は雇いたくない。私が雇うのは、口がそんなに達者でなくてもいい。言われた事を真面目に朴訥に、一所懸命一つ一つ実行するタイプの間人、嘘はつかないで、約束を守ろうとする人間を雇うようにしている・・・と書き残しています。

渋澤栄一さんは 84 歳の時に『論語講義』を口述筆記していますが、その中で、世の中の青年諸君に向けて、次のような事を言っています。

予が今日まで生きてきた中で、五百数十の会社を立上げ、六百数十の社会奉仕や教育関係の団体に携わった。その中で一番肝心なものは、その組織の人物如何にある。トップが身を正しく、世の中の為にと行って行動している企業・奉仕団体はすべて順調に進んでいる。官僚が天下ってトップに座っている所は、押しなべて皆駄目になっている。これは自分が八十数年間生きてきた中で、つくづく体験したものだ。だから企業・組織は、そのトップにしかるべき人物を持たねばならない。

青年諸君！何か事業を立ち上げようと思ったら、事業云々よりも、自分の人物を磨け。世の中の役に立つ事業かどうかを確認せよ。自分を磨く事によって、事業は伸びるのだ・・・という事を念押しをしていますのでご紹介しました。

では、レジメに入ります。

## 一．基本哲学

基本哲学は知足です。これは先ほど申し上げた通りです。ただ、今ほど自分の考えを持たねばならない時代はないと思っています。人の話を聞いて、そうだなと思っても、一晩寝れば大概忘れます。ですから自分の考え方をしっかり確立する事で、それに良いエネルギーを貰ったと思えるようなお付き合いの仕方が良いと思います。

### 自分の考え方をしっかり確立する上においてお勧めする事

#### 1. 日本の歴史を調べておく事

日本の歴史で調べておく事は何度も申しますが、昭和 21 年 2 月 17 日付けの新聞です。もう少し余裕があれば、昭和 21 年と 22 年の資料を調べられると良い。これから日本が陥るであろう状況が、そのまま出ているような気が致します。

六十数年前の新聞を調べてみると、お金持ちはお金持ちなりに、お金のない人はお金の

ない人なりに、皆、苦しい思いをさせられました。銀座の柳を引っこ抜いて、サツマイモを植えた時代の話です。私はこれを調べるのに国会図書館に行って、実際に自分でマイクロフィルムを回して調べました。そうすると、ネットで調べるよりはるかに吸収の実があります。

## **2. 外国の実態を自分の目で見、耳で聞く体験をすると良い**

私は今現在の時点では、アイスランドに行こうと思っています。アイスランドはリーマンショックの後、国が経済破綻を起こすという事で喧伝された 10 カ国の中で最有力ですから、非常に興味があります。外国の実態は、一つで良いから自分で行って調べてみて来ると良いと思います。

## **3. 投票は行くべきで、自分が投票したい人間がいなければ無効票を入れる**

最近、投票率を考えます。ヒットラーが出てきた時は、投票率が非常に低かった。誰に投票しても同じだと、投票率が低いどうにもならないところにヒットラーが出て、あれよあれよと云う間に独裁政権を作り上げていったわけです。私が師匠と仰いでいる木内信胤先生はドイツに住んでおられて、「ヒットラーの演説は、外国人の僕が聞いても凄い。血湧き肉躍るような体験を何度もしている。ドイツの国民であればなおさらだろう」と言っておられました。その頃のドイツの市内は、きちんと清掃がされていて、非常に素晴らしい国家を作り上げていたそうです。

私がやりたいと思うのは、投票所に行って、<今の政治家で票を入れようと思う人はおりません>と書いて投票すべきだという事です。今の選挙は投票率が 50%を割るのが普通です。誰も投票する人がいないと書いて投票すべきです。無効票が 8 割 9 割に達したら、政治家や官僚も何か一生懸命考えなければいけないという事になるでしょう。そういう運動が良いなと思います。

## **一 . 私の好きな言葉**

### **嘘をつかない**

嘘をつかないというのは、何かにつけて判断基準の大きなものになります。ところがリップサービスも含めて、どうしても嘘をつかなければならない場面があります。そういう時は心が痛んでも、<嘘をつかない><嘘をつかない>と努力すれば良いのです。相手の為につく嘘や、相手が普通に話の分からない状況であったりした場合は、状況に応じて臨機応変に対応すれば良いと思います。

### **利によりて行なえば、怨み多し**

世の中至る所に「利」があります。食べたいなと思って、腹いっぱい食べる。仕事も儲かりそうだからやってみる。自分の欲・利益だけで全部を捕まえていたら、周りから怨まれて嫌がられる存在になるだけです。どうも腹七分目くらいが良さそうです。知足は腹七分目であると感じています。

## 一．心に残る言葉

本日の心に残る言葉は『天風先生座談』という本の中の言葉です。宇野千代さんが書いています。

私は、いまから十七、八年前、『おはん』という作品を書いたあと、ぴったりと筆がとまった。一行も書けない。（中略）

「人間は何事も自分の考えた通りになる。自分の自分に与えた暗示の通りになる。」あの夜、天風先生が言われた。（中略）

十七、八年の間、ぴたりと一行も書けなかった私が、ある日、ほんの二、三行書いた。書ける。また、一枚書いた。書ける。ひょっとしたら、私は書けるのではあるまいか。そう思った途端に書けるようになった。書けないのは、書けないと思ったから書けないのだ。書けると信念すれば書けるのだ。

『天風先生座談』宇野千代著 廣濟堂出版

出来ると思えば出来るのです。出来ないと思えば出来ないのです。出来ると思う言葉をずっと心に念じていると、心の貯金箱に想いが貯まっていきます。それが、やっぱり無理かなと思った瞬間に、貯めていたものが全部消えてしまいます。

自分は出来ると思いついてずっと積み上げていっても、ほんのちょっとマイナスのイメージを持った瞬間に雲散霧消します。ですから出来ると思った時は、最後までずっと思うこと。出来ない状況が続いたとしても、出来ると思いついて動いていれば、必ず最初に自分が思った事は出来る。

これは知識・見識・胆識の中で、知識として私は知っています。何かを達成したいと強烈に思いますと、行動もそれに動いていくから、自然と出来るようになります。ところが自分の力が1であるのに、千とか1万とか手の届きそうもないものは、最初から頭に浮かんでこないのです。何とかなりそうだったものは、頭の中に浮かんで来て、必ず出来る。これは自分自身の信念にすればいい。それは知識でそう思っていて、それが見識になれば（そういう風なものだと思いを込めれば）、あとは実行するだけです。

何も国家天下の大きなものだけが、知識・見識・胆識の対象になるわけではありません。例えばダイエットの場合でも、胆識に直結できます。

残り時間が数分ありますので、知識の中で今、私が気にしている事を申します。

私は、還暦になったら世の中にお返しをする年代に入るのだ、と思いなさいと以前から教わっていましたが、自分でもそう思っていましたから、早く 60 歳になってそういう動きをしたいと思い、中斎塾フォーラムを創りました。

58 歳で 30 年間続けた社長業をバトンタッチしましたから、結構気が楽になって、中斎塾フォーラムをしつつ世の中の役に立つ事をして、ゆっくりゆったり過ごしたいと思っていました。2 年間経って気が付いたら、スローガンが「急ぐな・走るな・詰め込むな」となっていました。ゆっくりゆったりでやろうと思っていたのが、いつの間にか昔に戻っていた事に気が付きました。それで「仕事を減らせ」というスローガンに変えました。

自分自身の身体を 10 年 10 年の単位で考えて、4 月から仕事を減らすように切り替えています。2 : 1、3 : 1 のリズムに変える事にしました。

今、リズムは 2 つあります。一つは 6・6・12 です。ご飯を食べるリズムです。朝 6 時にご飯を食べる。6 時間間を置いて 12 時にお昼ご飯を食べる。夕方 6 時にご飯を食べる。次の朝ごはんは、12 時間置きます。これは実行中です。

もう一つは 2 : 1、3 : 1 の生活リズムです。これは 7 月からやろうと思っています。仕事を 2 日間やったら 3 日目はお休み、そして又 3 日間仕事をしたら、次の日はお休みというリズムです。そうすると 7 日で、1 週間ちょうど良いのです。私は土・日・祝祭日はほとんど気にしていないのです。色々な人の話を聞くと、土・日・祝祭日は結構休んでいるのですね。2 : 1、3 : 1 のリズムにしてみたら、1 週間がちょうど身体の健康に良い。そしておまけとして、土・日・祝祭日にぶつかった時には、休んでも良いことにしようと思っています。2 : 1、3 : 1 のリズムにすることによって、健康を維持しようと思っています。それは仕事を減らせというスローガンとぴったりします。

仕事を減らす事によって自分の健康管理をし、それは生活リズムとして 2 : 1、3 : 1 でやれば良い。他の土・日・祝祭日で休める日があれば、それはご褒美だと決めています。尚且つ 8 月は、まるまる休みにしています。

という事で、今、自分自身の事に知識を使うようにしています。

先ほどの論語の解説で、もう少しお話しします。

渋澤栄一が『論語講義』の中で、「器ならざる人」と「器の人」という言い方をしています。「器ならざる人」とは、茫洋として捉えどころが無いけれども、非常に大きくて、社会全体の役に立つ人という意味です。渋澤栄一は「今の時代を概観するに、三傑（西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允）は器ならざる人だ」と言っています。

大久保利通については、渋澤栄一が6年間官に仕えて、大蔵次官くらいのポストに就きましたが、大久保利通と喧嘩をして辞めています。その頃、明治政府の収入が約4000万円くらいでしたが、海軍と陸軍の費用として1050万円必要であるという予算を組んだのです。その諮問会議の際に、渋澤栄一がまだ30歳になったばかりの若者でしたが、席上で、「お言葉ですが、入るを図りて出づるを制するという言葉があります。明治新政府の収入が確定もしていない。4000万ほどの収入の中で、1000万以上のお金を陸海軍に使うと決めるのはよろしくない。収入をもう少し増やしてから、それに見合った支出を決めたら如何か・・・」と言ったわけです。

「然らば渋澤は、予の申す事に不承知か・・・」となって、衝突したのでしょうか。渋澤栄一は憤慨して、翌年の5月に辞めています。ですから渋澤栄一さんは、大久保利通の事をいう時には、「私は、大久保利通は嫌いだけれども・・・」と前置きをしています。しかし、器ならざる人であったと言っています。

西郷隆盛に対しては、「何かは分からぬが、お懐かしい人だ」と言いながら、やはり器ならざる人だと言っています。

木戸孝允は、組織を作って、組織の中で理性的にはっと気がついたら一つの事業をなしていたと、器ならざると評価しています。

この三人に対して勝海舟については、「素晴らしい人物であるが、器の人である」という言い方をしています。

前回から論語素読の解説をし始めましたから、渋澤栄一がどのように明治時代の人物を見ていたか、又、明治時代の色々な事象を解説したのも、少し付け加えるようにしていきたいと思っています。

お時間でございます。本日の東京フォーラムの講話を終了させて戴きます。有難うございました。